

T-SHIRT ART EXHIBITION

TOSA - KENYA - SAGAMI

海でつながるTシャツアート展
報告書 REPORT



目次

- 003 海でつながるTシャツアート展 概要
- 005 展示Tシャツ作品の紹介
- 007 全会場共通ワークショップ【旅する海キャンバス】
- 009 海でつながるTシャツアート展 in 砂浜美術館
- 010 海でつながるTシャツアート展 in ケニア
- 011 海でつながるTシャツアート展 in 真鶴
- 013 海でつながるTシャツアート展 in 葉山
- 016 Tシャツでつながった世界・日本の海 特別授業 in 砂浜美術館
- 017 チラシ・ポスター・スタッフTシャツ
- 018 メディア掲載
- 019 成果と課題

H I R A
H I R A H I R
H I R A H I R A H
H I R A H I R A H I

海でつながるTシャツアート展 概要

■開催趣旨

たくさんのTシャツが一斉に潮風に踊る、砂浜美術館のひらひらの風景。その向こうに広がる水平線は、日本中の海、世界の海と一つにつながっています。そんな「豊かな海」「海のつながり」を、Tシャツアート展を通して発信、共感し合うため、各地で海を愛する方々と共に、それぞれの砂浜でひらひらの風景を創り、海にふれあうプログラムを企画して、海を楽しむイベント『海でつながるTシャツアート展』を開催します。砂浜美術館の土佐湾からケニアのインド洋へ、そして真鶴町と葉山町の相模湾へ。Tシャツの海旅によって、各地の風景と、海に関わる人々、海への想いをつなぎます。

■開催スケジュール・プログラム



2016年5月1日(日)～6日(金)

海でつながるTシャツアート展 in 砂浜美術館（高知県・黒潮町）

第28回Tシャツアート展にて、一般応募作品1000点と共に、海企画Tシャツ、海の絵の展示。
海の絵のワークショップの実施。



2016年6月3日(金)～7日(月) ※自主事業

海でつながるTシャツアート展 in ケニア（キシテ・ムプングティ海洋公園・ディアニビーチ）

自主事業として、海企画のTシャツと海の絵をケニアのインド洋へ。
Tシャツの展示、海の絵のワークショップの開催。



相模湾でひらひら①

2016年7月2日(土)～10日(日)

海でつながるTシャツアート展 in 真鶴 (神奈川県・真鶴町)

～海のある町、真鶴でひらひらさせよう～

岩海岸(2日のみ)、真鶴町立遠藤貝類博物館テラスにて、Tシャツ、海の絵の展示。
海の絵のワークショップ、海の体験プログラムの実施。



相模湾でひらひら②

2016年7月16日(土)～18日(月)海の日!

海でつながるTシャツアート展 in 葉山 (神奈川県・葉山町)

～学んで感じて創って・海をとことん楽しむ3DAYS!!～

一色海岸にて、海を旅したTシャツを全て展示、海の絵の展示。

3日間にわたり、海の絵のワークショップ全6回の海の体験プログラムの実施。



土佐湾で授業

2016年10月24日(月)・28日(金)

「Tシャツでつながった世界の海」特別授業 in 砂浜美術館 (高知県・黒潮町)

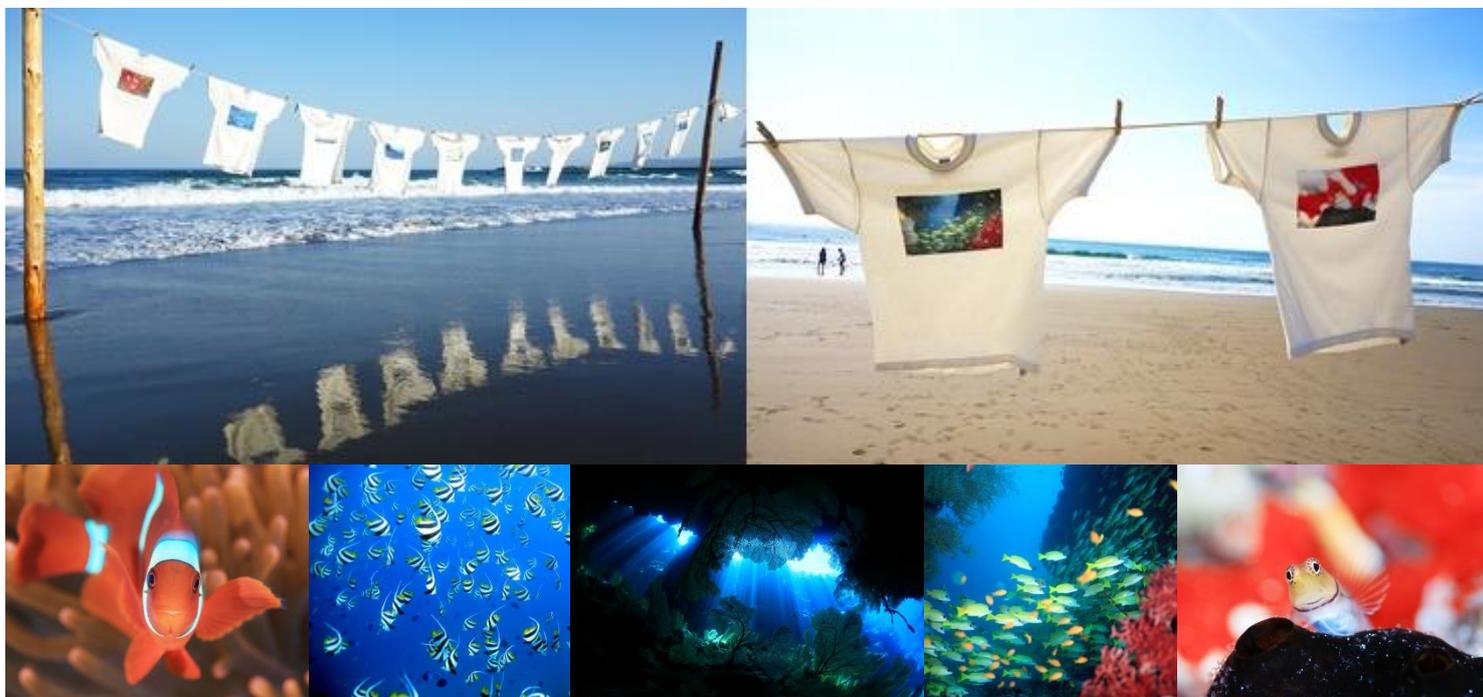
各地の海を旅したTシャツ、海の絵を鑑賞、Tシャツを子どもたちに返却。
それぞれの海や展示の様子を、まとめ映像や写真で紹介。

展示Tシャツの紹介



■黒潮町・小学4年生のみんなのTシャツ ※自主事業

「私たちの町、海、砂浜美術館をケニアや世界に発信しよう！」をテーマに、町内8校全ての小学校でワークショップを実施。全3年生、75名が参加し、それぞれの「海」「砂浜美術館」を描きました。館長のクジラやカツオはもちろん、Tシャツや小鳥のあしあとなど、砂浜美術館の”作品”がたくさん登場しています。



■鍵井さんの海のひらひら写真展 ※助成事業

第28回Tシャツアート展の審査員・水中写真家の鍵井靖章さん。美しい色がより際立って見える、音のない海中世界、散歩で出会うさまざまな物語。時にはそこに暮らす彼らと見つめ合って…。「海の中では、この地球上にある全ての色を見つけることができるはず！」という鍵井さんの”目線”を通して、世界の海と出会える写真Tシャツです。



■海でつながる NPO【もあなキッズ自然楽校・ディスカバーブルー】のみんなのTシャツ ※自主事業

自然体験活動を通じて「未来を創る」子どもたちを育成する『もあな』と、「人」と「海」との持続可能な新しい関わり合い”をテーマに活動する『ディスカバーブルー』。今回の海でつながる旅先、相模湾をフィールドに活動する NPO のみなさんが、海や自然の中で遊んだ楽しい思い出を描きました。



■会場の海プログラムで作成した、みんなのライブペイントTシャツ ※助成事業

「ひらひらの風景づくり」「Eポート体験」「磯の生き物観察」「海の安全教室」、体験した海の楽しさをその場で表現した、子どもたちのライブペイントTシャツ。大胆な色使いや、細かい観察力、子どもはみんなアーティストです。展示した後、帰る時にはお土産に、海の思い出をTシャツで持ち帰ってもらいました。



■ケニアとつながるひらひらプロジェクトTシャツ ※自主事業

ケニア・シモニの小学生が海体験の感動を描いた絵の中に、日本からの応募者の「好きな言葉(英語かスワヒリ語で)」を入れた”合作”Tシャツ。「ケニアの海を日本のみんなに発信したい」というケニア子どもたちの想いをのせて、ひらひらした後は日本の参加者へ届けました。人と人の交流を通して、世界の海のつながりを感じるプロジェクト。

ワークショップ【旅する海キャンバス】

各地で「海でつながるTシャツアート展」を楽しんでくれるみなさんと、世界の海を描こう！と、2m×6mの大きな白い布のキャンバスを、Tシャツと一緒に旅させました。各Tシャツアート展の来場者に、自由に「海のイメージ」を描き込んでもらうワークショップ。土佐湾ーインド洋ー相模湾をつないで、大きな世界の海をみんなで創りあげました。



2016年5月1日(日)～6日(金) 海でつながるTシャツアート展 in 砂浜美術館 にて

一筆目は、土佐湾の中でも生き物の宝庫・柏島のNPO黒潮実感センター・神田優さんをゲストにお呼びしてスタート。子どもはもちろん、大人も大いに楽しんでくれた海キャンバス。砂浜美術館から始まった土佐湾の海が、すでにケニアのインド洋のエリアに大きくい込みました。



2016年6月4日(土) 海でつながるTシャツアート展 in ケニア にて ※自主事業

緑がかった海に真っ白な砂浜、ケニアの南東部、ディアニビーチにて。ひらひらの風景を一緒に創った子どもたちが、思い思いに海を描きました。土佐湾では登場しなかった、マングローブも登場。そして、ケニアの子どもたちは大胆でした。



2016年7月2日(土)～10日(日) / 7月16日(土)～18日(月)
海でつながるTシャツアート展 in 真鶴&葉山にて

まずは真鶴町の岩海岸へ、その後遠藤貝類博物館のテラスへ。相模湾スペースの半分ぐらいの予定が、端っこだまでみんなの真鶴愛がぎっちり！ゴールの葉山に向けて、キャンバスを拡大しました。大きな真っ白なスタートとなった葉山では、NPOオーシャンファミリー海洋自然体験センターの“海のアーティスト”吉田健太郎さんの一筆目から。その後は、水着姿の子どもたちから、葉山町の町長さんまで、子どもも大人もワイワイ海のお絵かきを楽しんで、世界とつながる大きな大きな海の絵がとうとう完成しました！！



海でつながるTシャツアート展 in 砂浜美術館

- 日程:2016年5月1日(日)~6日(金) 8:00~18:00
- 開催場所:砂浜美術館(高知県・黒潮町 入野の浜)
- 主催:NPO 砂浜美術館
- 協力:NPO 黒潮実感センター、NPO もあなキッズ自然楽校
- 来場者:28104人 ワークショップ参加者:約1500人

第28回Tシャツアート展の企画展として開催。“海のつながり”をテーマにしたTシャツ・布のキャンバスで、砂浜美術館を好きでいてくれる多くの来場者に、改めて海を実感してもらう機会をつくることができました



砂浜美術館でのひらひら！へ、地元黒潮町の小学校より、全校のみなんで遠足にきてくれました。子どもと先生、全員集合！



全作品1022点と一緒にひらひらした「旅する海Tシャツ」。黒潮町、ケニア、神奈川県の子どもの『海』が並びました☆



水中写真家・鍵井靖章さんの「海のひらひら写真展」どの写真の海も、この水平線とつながっている…。 鍵井さんも鑑賞中。



砂浜美術館のお話の後、4年生は自分のTシャツ探し。「あったー！」 その後は、海辺を満喫！ 砂浜美術館を満喫☆

海でつながるTシャツアート展 in ケニア ※自主事業

- 日程: 2016年6月3日(金)・4日(土)
- 開催場所: キシテ・ムプングティ海洋公園(シモニ) / ディアニビーチ
- 主催: NPO 砂浜美術館
- 共催: KWS(ケニア野生生物公社)
- 来場者: 120人 ワークショップ参加者: 約80人

国立公園を管理する KWS の協力を得て、公園内でのミニ展示、また KWS の環境教育プログラムに参加したケニアの子どもたちと共に、Tシャツアート展の風景をつくりました。Tシャツが水平線で風にゆれる風景を、海のつながりの実感に。各地で海を愛し、海を大切にしている人がいることを、日本の人々に広く伝えていきたいと実感しました。



キシテ・ムプングティ海洋公園でひらひら！地元の子もたちこそ本物の海体験を。海で出会った感動をTシャツに描きました。



情報発信は、環境を守ることの1つ。「Tシャツアート展でケニアの海を発信しよう！」と、共にひらひらの風景を創りました。



観光地としても有名なディアニビーチ。真っ白な砂浜でひらひら！Tシャツの絵を描いた子どもたちが3つの小学校から大集合。



ケニアの南東部、海辺の小さな田舎町・シモニ。赤土の大地と鮮やかな緑。 定番の朝ごはん。 カンガが素敵な親子。

海でつながるTシャツアート展 in 真鶴

- テーマ: ~海のある町、真鶴でひらひらさせよう~
- 日程: 2016年7月2日(土) 10:00~15:00 7月3日(日)~7月10日(日) 10:00~16:00
- 開催場所: 2日のみ岩海岸(神奈川県・真鶴町)/3日~10日真鶴町立遠藤貝類博物館テラス
- 主催: NPO 砂浜美術館
- 共催: NPO ディスカバーブルー、真鶴まちな一れ実行委員会
- 協力: 岩漁業協同組合、真鶴町観光協会、一般社団法人真鶴未来塾
- 後援: 真鶴町教育委員会
- 来場者: 500人 ワークショップ参加者: 約300人 体験プログラム参加者: 52人



まずは、真鶴町唯一の砂浜、岩海岸にて開催。神奈川で活動する海関連 NPO のみんなのTシャツと、黒潮町、ケニアの子どもたちのTシャツの一部計 40 点を展示。大きな橋がかかる美しい砂浜で、Tシャツがひらひらと風にゆれる新しい海辺の風景を、たくさんの方に楽しんでもらうことができました。会場では、岩海岸の石を使った、「石花会のロックバラシング」のワークショップも実施。真鶴の魅力、岩海岸の魅力を全身で感じながら、その魅力をみんなで共有し楽しむという、とても素敵な空間となりました。NPO ディスカバーブルーのスタッフ・ボランティア、真鶴まちな一れ実行委員会や真鶴町役場のみなさんにも、たくさんご協力をいただきました。



2日目からは、会場を真鶴町立遠藤貝類博物館のテラスへ移動し、70 点を展示。海を見渡すテラスにはすぐ隣の「お林」からの風が吹き渡り、ここでもTシャツと海辺の新しい風景を、アート展の来場者はもちろん博物館の来場者にも楽しんでもらうことができました。1週間と長期間展示したことで、いろいろな天候、いろいろな表情に出会えました。また、両会場にて実施した、砂浜美術館・ケニアを旅した海のキャンパスのワークショップも大好評。予定していたスペースを超えて、余白全てが絵でいっぱい。真鶴愛があふれる大きな海の絵となりました。(葉山開催に向けて布を延長)



最終日の日曜日には、2つの海の体験プログラムを実施。1つは、「海の生き物スタンプ×海Tシャツづくり」。真鶴のデザイナー山本知香さんによる、海の生物や自然をモチーフにしたオリジナルスタンプをおして、海Tシャツを作ろう。目の前に並んだ、かわいいモチーフやたくさん色、ペッタンペッタン作業も楽しいスタンプに、子どもはもちろん親子で夢中に！まさに十人十色で、海にぴったりなTシャツが完成しました。



2つ目は「海の生き物観察×海Tシャツづくり」。まずは、海の博士・NPO ディスカバーブルー代表水井さんやスタッフと共に、三ツ石海岸で磯の生き物を見つけてみよう。みんなやスタッフが見つけたものを観察して、名前や特徴を教えてもらったら、今回はなんとTシャツにスケッチ。みんなよく見てるなあ…大人も感心する、子どもたちの観察力でした。仕上げには海の色をペイントしたり、海へのメッセージを書き込んだり。こちらも、次々と(ちょっとマニアックで?)ステキなオリジナルTシャツが完成、参加者みんなが満足そうなのが印象的でした。

■参加者の声

- ・また来年もやってほしい。(多数)
- ・Tシャツアート展を初めて知った。次回の黒潮町のTシャツアート展には参加したい。
- ・黒潮町に行ってみたい。(スタッフ一同)
- ・展示されている黒潮町の小学生の絵が上手だった。
- ・ケニアのこどもと日本のこどもの絵の感じがちがう。

■真鶴まちな一れ Facebook ページ コメントより

- ・世界を渡った T シャツや大きなキャンパスに囲まれた、海の雰囲気いっぱいの中で T シャツ作り、参加させて頂きました！素敵な海の生き物スタンプを使って、親子共々とても楽しく作る事ができました(*^^*)
- ・葉山より T シャツ参加させていただきました。1時間あっというまでした。真鶴の魅力を感じた1日でした。また遊びに行きます！

海でつながるTシャツアート展 in 葉山

- テーマ: ~学んで感じて創って・海をとことん楽しむ 3DAYS!~
- 日程: 2016年7月16日(土)・17日(日)・18日(月) 10:00~16:00
- 開催場所: 一色海岸(神奈川県・葉山町)
- 主催: NPO 砂浜美術館
- 共催: NPO オーシャンファミリー海洋自然体験センター
- 協力: 一色海水浴場組合、一色ロイヤルビーチ
- 後援: 葉山町、葉山町教育委員会
- 来場者: 5410人 ワークショップ参加者: 約600人 体験プログラム参加者: 323人



海水浴場としても人気の活気あふれる一色海岸にて、海の日3連休に開催したTシャツアート展。砂浜美術館、ケニア、真鶴を旅した全ての企画Tシャツ200点を展示しました。雨や曇りの天気予報を覆し、連日の晴天。暑さとの闘いの中、NPO オーシャンファミリー海洋自然体験センターのスタッフやボランティア、この日のために集まったTシャツボランティアなど、総勢約30名のみなさんにご協力いただきました。キラキラ輝く海と青空のもと、まさに“海をとことん楽しむ”たくさんのお子様たちの笑顔があふれた3日間。大きな布の絵のワークショップも、全てのスペースが参加者のイラストと海の色で染まり、とうとう世界をつなぐ大きな海の絵が完成しました。



1 日目の始まりのプログラムは、「ビーチクリーンとひらひらの風景づくり」。海辺の風景を美術館にしてしまう、Tシャツアート展の展示作業も一緒に楽しもうというもの。参加してくれたたくさんの親子に、まずは「建物のない美術館、砂浜美術館」について紹介し、みんなで美術館をキレイにしようと、ビーチクリーンを行いました。合わせて「ビーチコーミング」も紹介し、拾ったものについて、海の博士・オーシャンファミリー代表海野さんが解説してくれました。その後はTシャツの展示作業。ロープに通し、一枚一枚クリップでとめて。親子で協力しながら、楽しみながら、みんなの手でひらひらの風景を創ることができました。最後にそれぞれ自分のTシャツを作り、この美術館に展示しました。(これは次々頁で)



2つ目のプログラムは、「Eボート体験」。Emergency や Education からネーミングされるEボートは、救助にも使えるとあり、大人 10 人ほどが一度に乗れる大きなボート。親子で一緒に乗り込み、みんなで力を合わせてこぎます。こちらは大人気のプログラムとなり、100 名の定員が早々に予約満員になり、キャンセル待ちが出るほど。当日は、海の風をきって水上をスイスイと進み、海側から、Tシャツアート展を楽しむこともできました。最後には、海にダイブして、海を大満喫する子どもたちも。漕ぎだしはワクワク期待感の笑顔、帰りは満足感の笑顔。みんなの表情から、楽しく海にふれあった様子がよく伝わりました。そして、楽しかった思い出を、Tシャツに！（これは、次頁でまとめてご紹介）



3つ目のプログラムは、「磯の生き物観察」。当日は海況に合わせ、1 日目は潮だまりで、2 日目は少し海にも入りながら、葉山の磯の生き物を観察しました。ドキドキ緊張しながら生き物を触る子もいれば、大胆にさっと生き物をつかめる子も。そして、みんながつかまえた生き物について、海の博士・オーシャンファミリーのみなさんが解説。名前や特徴に、「へ〜」の連続。知ると、もっともっと興味がわきます。子どもはもちろん、大人たちも、興味津々で生き物に注目していました。そして、いつもは紙にする観察スケッチですが、今回はTシャツに！（これは、次頁でまとめてご紹介）



4つ目のプログラムは、「海辺の安全教室」。海辺の安全について、紙芝居で学んだ後、実際に3つ体験を。まずは、ペットボトルレスキューについて。ロープをつけたペットボトルを投げて、人を助ける方法。子どもたちが、大人を助けることにチャレンジしました。次は、おぼれた時に慌てず、浮いてみる技。力を抜けば自分の浮力でも浮ける、背浮きの体験。その後、バケツ、ビニール袋、ランドセルなど、身近なものを浮力体に、小さなものでも活用できることを学びました。最後はフロートに乗りあがる練習、また、人をフロートに引き上げる体験。「安全教室」ではありますが、海を楽しむプロ・スタッフさんのお話で楽しく学ぶことができました。また、親子で協力しながら、特に子どもたちが親を助ける体験は、親子にとってとてもよい経験になったようでした。そして、思う存分海にふれあい、楽しく学んだ思い出を、Tシャツに！（これは、次頁でまとめてご紹介）



全てのプログラムで、海に親しんだ後は、Tシャツづくりで海を表現しました。大好きな海、楽しかった赤いEポート、見つけた生き物のおもしろさ、はじけるような元気いっぱいの色…。ワクワク感を大胆に表現する子、じっくりと観察しながらものすごい集中力でコツコツと描きあげる子、子どもたちのTシャツは、まさに十人十色。みんなが描くライブペイントは、楽しい思い出があふれて、どれも本当に素晴らしいTシャツになりました。子どもアーティストの活躍に、お父さんお母さん、お客さん、スタッフも感動。砂浜美術館、ケニア、真鶴を旅してきたTシャツに、ここ葉山で生まれたTシャツが合わり、さらにステキなTシャツアート展の風景になりました。それぞれの海体験の楽しさをTシャツに表現し、展示するこの企画を通して、子どもたちの海への想いと、素晴らしい創作力があふれる「一色海岸美術館」を、参加者・来場者・スタッフみんなで共感し合うことができました。

■参加者の声

- ・いつもの風景が特別な空間になり、うれしい。また来年もやってほしい。
- ・黒潮町に行ってみたい。
- ・身近な海にたくさんの生き物がいることを知り、豊かな自然を実感できてよかった。
- ・子どもたちの創作力に感心した。子どもはみんなアーティスト。
- ・イベントが海辺に来るきっかけになり、よい経験になった。
- ・海をよく知る人と共に体験し、魅力を伝えてもらうことで、より海を好きになった。
- ・子どもにももっと海遊びをさせたいと思う。
- ・大きな海の絵で、世界のつながりを感じられた。自分も参加できてうれしい。

■砂浜美術館 Facebook ページ コメントより

- ・今回はとても楽しい企画に参加できて光栄です。この出会いも大切にしたいです！

Tシャツでつながった世界・日本の海 特別授業

■テーマ: ~砂浜美術館で、Tシャツの海の旅を感じよう! ~

■日程: 2016年10月24日(月) 10:00~11:30 / 2016年10月28日(金) 10:00~11:30 / 14:00~15:30

■開催場所: 高知県黒潮町・砂浜美術館、土佐西南大規模公園海のバザール / 黒潮町立拳ノ川小学校

■主催: NPO 砂浜美術館

■協力: 黒潮町立拳ノ川小学校・伊与喜小学校・佐賀小学校・上川口小学校・南郷小学校・入野小学校・田ノ口小学校・三浦小学校、黒潮町教育委員会

■参加者: 児童 91人 教員 8人



当初は各小学校での実施を予定していたTシャツの旅の話と返却の授業について、町内全小学校と教育委員会の賛同・協力を得て、砂浜美術館で行うことができました。2日間に分け、4校・3校の合同授業として実施、子どもの送迎には長バスを手配いただきました。同学年の小学生との交流としてもよい機会になり、みんなで海辺の風景を実際に共有しながら、各地のTシャツアート展、海の旅について紹介することができました。28日はあいにくの雨天でしたが、自然ともにある砂浜美術館のよさも、子どもたちが実感してくれました。しかし、ドローンでの撮影が叶わず、後日撮影を実施。

■子どもたちの感想より

- ・黒潮町からケニアへ行って、その後また神奈川県まで、ぼくたちのTシャツをもっていってくれてありがとう。
- ・砂浜に行って見た海の絵はすごい数でした。相模湾の写真はきれいでした。遠くに富士山も見えました。いろいろなところに行ったTシャツはすごいと思いました。
- ・雨の日に、美術館に行きました。ぼくたちの美術館は、自然自体が美術館なので、すごくいいなと思いました。
- ・神奈川県のをもらって、ここ黒潮町にも同じような貝がらがあるかなと思いました。
- ・Tシャツには、ケニアの海や自然や動物や人たちが想像できました。
- ・これからもTシャツを大事にしたいです。

チラシ・ポスター・スタッフTシャツ



参加者募集チラシ A3 両面 二つ折り 7000部



葉山会場配布チラシ(展示Tシャツ作品名簿) A4両面 600部

開催案内ポスター A1片面 200部



スタッフTシャツ表



スタッフTシャツ裏

メディア掲載

メディア名	掲載日	内容
日本経済新聞(全国)	2016年5月2日	黒潮町開催(鍵井靖章さんの作品)
高知新聞	2016年7月17日	葉山町開催(開催の様子)
タウンニュース	2016年7月22日	葉山町開催(開催の様子)
NPO 砂浜美術館 Facebook/HP	2016年5月1日~10月24日	開催、参加募集、実施報告など
NPO オーシャンファミリーFacebook/HP	2016年6月13日~7月20日	開催、参加募集、実施報告など
NPO ディスカバーブルーFacebook/HP	2016年6月16日~8月16日	開催、参加募集、実施報告など
真鶴まちな一れ Facebook	2016年6月19日~7月10日	開催、参加募集、実施報告など

●その他、来場者・応援者の Facebook、ブログ、Twitter、Instagram 等によるメディア発信多数



窓
 ◎…高知県黒潮しい」と鍵井さん。
 町の砂浜で、写真やイラストが鳴門市の高校2年、小幡プリントされた白いTシャツを洗濯物のように展示するアート展が、1日から始まった。飾られた

1100枚が青い空と海をバックにはためいた。写真。真。◎…兵庫県出身の水中写真家、鍵井靖章さん(45)が世界中の海で撮影した色鮮やかな写真のTシャツも飾られた。「シャツの向こうにつながる海を想像してほしい」と話していた。

日本経済新聞 2016/5/2



一色海岸 ふわり潮風に揺られ

海の日18日、一色海水浴場で一風変わったアートが海水浴客を賑わす。白いTシャツが潮風に揺られ、写真、イラストがプリントされたTシャツには写真やイラストがプリントされたTシャツを洗濯物のように展示するアート展が、1日から始まった。飾られた

高知県黒潮しい」と鍵井さん。町の砂浜で、写真やイラストが鳴門市の高校2年、小幡プリントされた白いTシャツを洗濯物のように展示するアート展が、1日から始まった。飾られた

Tシャツ 一色海岸 彩る

黒潮町のNPO 神奈川で「アート展」

【東京支社】 幡多郡 Tシャツアート展を開催している。現地の団体術館が「海でつながると協力し、Tシャツ作り体験する教室」も企画。18日まで黒潮葉山町の一色海岸で「町や現地の子どもたちの作品を飾るTシャツアート展(神奈川県の一色海岸)」を開催し、葉山町で9日間は観覧会なども予定している。初日は、親子連れ約100人がゴムボート体験などに参加。子どもたちは思い出を絵の具でTシャツに描き、砂浜に飾った後は記念撮影した。

の作品が砂浜を彩っている。Tシャツアートを通じて海辺の町で交流を深めようと、同NPOが海を生かした教育活動などに取り組む民間団体と連絡を取り合い、実現した。今月初めに神奈川県真鶴町で9日間開催し、葉山町では磯の生き物の観察会なども予定している。初日は、親子連れ約100人がゴムボート体験などに参加。子どもたちは思い出を絵の具でTシャツに描き、砂浜に飾った後は記念撮影した。

影を楽しんだ。海水浴場そばの会場では、黒潮町の小学4年生75人の作品と、これまでアート展を開いてきたケニアと神奈川県の子どもの作品を展示。カニやクラ、イルカなど色とりどりに描かれた約200枚が風に揺れる。

親子3人で訪れた横浜市の山口ゆう子さん(40)は「以前から高知に住む地域によって描く海の絵も違うように面白いです」と話していた。(福田一昂)

高知新聞 2016/7/17

タウンニュース 2016/7/22

成果と課題

■動員総数【目標数】

- ・Tシャツの作品づくり:162人【100人】 ※この制作費は自主事業
- ・各会場でのTシャツアート展の風景づくり:150人【50人】
- ・各地のTシャツアート展イベントへの来場者:35000人【55000人】
- ・ワークショップへの参加:2480人【体験プログラムと合計で1300人】
- ・体験プログラムへの参加:375人【ワークショップと合計で1300人】
- ・砂浜美術館 Facebook ページ(Tシャツアート展関連記事)での、リーチ数:179,190人【100,000人】

■成果と課題

28年間砂浜での開催を継続しているTシャツアート展で、これまで企画してこなかった「海」をテーマにした展示は、作品づくりへの参加者、アート展への来場者、体験プログラムへの参加者、そして企画者にとっても、海辺の風景の中で改めて海への想いを再確認する、とてもよい機会となりました。

風景づくり、ワークショップ、体験プログラムは、全て目標数を超える参加がありました。海の絵を描くワークショップについては、運営スタッフが常に来場者に声かけをして参加を呼びかけたこと、また海辺に現れた巨大な布キャンバスの存在感とユニークさが、多くの方の関心につながったと思います。体験プログラムについては、共催した団体の広報力、また各地の教育委員会の協力を得てチラシを小学校等で配布いただけたことで、チラシ部数を減らしたにも関わらず、目標以上の参加者を得ることができました。そして全ての参加者から、とても良い機会になった、楽しかったと好評を得ました。海の「体験」や「学び」と、Tシャツづくりという「アート」をコラボさせた本事業の可能性を、大いに感じることであった結果となりました。

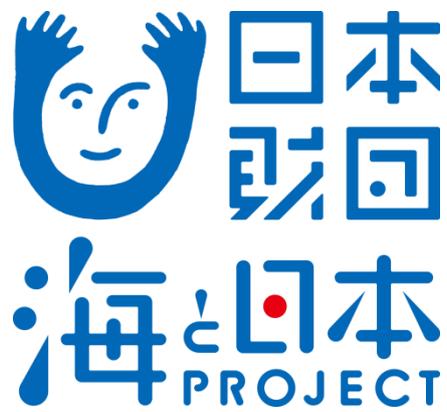
来場者数について目標に届かなかった要因の一つは、砂浜美術館での開催について、6日間の会期の半分が雨天と天候に恵まれず、近年伸び続けていた来場者数が昨年を下回ったことがあげられます。また真鶴町、葉山町での開催については、都内近郊ということもあり、より多数の来場者を見込んでいましたが、初めてのTシャツアート展ということもあり、予想する集客には至りませんでした。しかし、充実した体験プログラムの実施があったことで、来場・鑑賞だけでなく参加を楽しみ、多くの方が長時間深くイベントに関わってくれました。会場のスペース的にも妥当で、満足のいく来場者は得ることができたと感じています。

「豊かな海・海のつながり」の発信については、目標を大幅に超える、砂浜美術館 Facebook ページへのリーチ数がありました。関連の投稿数28における平均リーチ数は、6399。また投稿へのリアクションである「いいね」については総数6436、平均数229。当ページの他の投稿と比較しても、充実した反響となりました。これは、本事業の助成には至らなかったケニアでの開催を自主事業で実施したことも、壮大な海のつながりへの実感と関心を呼びかけになっていると思います。助成いただいた内容だけに頼らず、協力団体と共に企画をやり通せたことで、本プロジェクトの目標をよりよい形で達成することができました。そして、Tシャツがつないだ各地の海辺の風景は、多くの方の海への興味・関心をひきつけるツールになることを、確信することができました。

最後に、この事業を通して各地で共催、協力いただいた団体、方々との出会いやつながりが、何よりの成果だと実感しています。各地の開催で中心的に動いてくださった方々が、この企画・開催を喜び、新たな分野の成果として評価してくださったことを心からうれしく思います。同じく海や自然をフィールドに活動する仲間たちとネットワークができたことは、今後生きる大きな財産です。

■成果物

- ・土佐湾・インド洋・相模湾をつなぐ大きな海の絵(2m×8m)
- ・「海でつながるTシャツアート展」報告書
- ・「海でつながるTシャツアート展」特別映像(9分37秒)
- ・特設WEBページ:<http://www.sunabi.com/news/umitsuna-report>



このイベントは、海と日本プロジェクトの一環で実施しました